



①②③④摘んだ茶葉は蒸したあと、まな板の上で揉み、天日で乾かして仕上げます。⑤5月には羽釜でたいご飯をいただきました。⑥高知神社の前で記念撮影！⑦⑧6月はたわわに実った梅を摘みました。この梅はジュースにすると特においしいそうです。

#### 参加者 レポート

キャンパスとなる千町の棚田は美しく壮大でした。私はなるべく日当たりのいい場所の木を選びました。摘んだ茶葉を蒸し、体重をかけて揉んでから散らばらせ、天日干しにします。作業の間にご用意くださった羽釜で炊いたごはんは、サイコーに良かったです。

そのとき前日に作ったお茶をいただきました。育った水のためか淹れたときの水なのか、良かったです。地元で言い伝えられた製茶方法でしたが、こういった継承されるべき文化が残っていることにも感動しました。

午後は棚田の散策。作業をした場所からは見えなかった棚田が目の前にぱっと広がりました。上から見下ろすと、現役の畑と耕作放棄畑が見えました。石垣は先人の知恵の偉大さを見知ることができ、高知神社は地元の方がとても大切にされている気持ち、きれいに掃除された境内からも伝わってきました。国道11号線から遠くない場所なので、もっと沢山の方に、この棚田を見てほしいなあと思いました。(5/4の授業より) [報告：武田裕美]

## せんじょう 千町の棚田で茶摘み&梅摘み ～西条加茂蕎麦くらぶ 共催授業～



ここで！  
千町の棚田（西条市）

2013.05.04 / 2013.06.22：授業日

藤原昌寛（西条加茂蕎麦くらぶ）、山内昭英（地元農家）：先生

内田年泰：授業コーディネーター

：COP10 愛知ターゲット



標高150～500mの千町地区で、5月には茶摘み、6月には梅摘みを行いました。



西条市街から国道194号線を高知へ向かう途中、細い道を上って行くと、山間に突然、多数の棚田が現れます。まるで「天界の村」のような千町の棚田です。しかし、この450年もの歴史ある棚田も、多くの人々が村を離れ、残る高齢者も少なくなり、現在では耕作放棄地が目立つようになりました。今回の授業は、この歴史ある石積み棚田を復活させようと、放棄地を再開墾しソバなどを栽培しながら、

### 千町の棚田とは？

豊臣秀吉の四国征伐「天正の陣(1585年)」のとき、土佐から援軍にきた伊藤近江守祐晴が敗戦を目前に、行くことも戻ることもできずこの土地に留まり、その後代々そこを開拓し、石積みのおうみのかみの水田があたかも段々のように積み重ねられていったと言います。「千町(1000ha)といわれるまで耕して谷の向こうに人家みゆ」という歌が地名の由来と言われ、山の斜面いっぱいに広がる棚田を誇っていました。近くには祐晴を祀った「近江神社」があります。



ら、自然保護や地域活性化の活動をしている「西条加茂蕎麦くらぶ」との出会いから生まれました。千町に暮らす農家の山内さん(81歳)のお話を聞きながら、お茶摘みや梅摘みを通して、千町の歴史や文化を学ぶことができたと思います。と同時に、耕作地の放棄は、それまでであった里の安定した生態系を崩し、不安定な環境になっていくことへの気づきを得る貴重な機会となりました。





①田植えの前に苗を「畑」から抜きます。②子どもたちも安心して泥だらけになれる!?③④午後は植えたばかりの田んぼで生きもの調査。⑤シジミチョウ、ヤゴ、トンボなどがいました。



#### 参加者 レポート

無農薬、無化学肥料の自然農に興味があり、実際に体験できるということで、5歳と2歳の子ども連れで参加しました。最初に稲の苗を畑からとる作業から始まりました。「苗を畑から」ということにいきなり驚かされました。畑に生えた稲と雑草が混在している中から稲だけを選び抜き、それをもって田んぼへ。子どもが小さいので田植えの手伝いはできませんでしたが、子どもらを空いている綺麗な(無農薬の)土の田んぼで裸になって遊ばせていただきました。安全な土で遊ばせられる安心と、土の感触や温度を感じることを子どもに体験させることができてとても良かったです。食べ物を作るということの本来の大変さや、稲も古代米から品種改良され尽くされた種など色々あるということなど、学ぶことが数多くありました。午後からの生き物観察では最近見かけなかったタイコウチやイモリなどが沢山見られてホッとしました。西条市は田んぼも畑も沢山ありますが、科学の力に頼った風景は美しいのか考えてしまうなあと感じました。

[報告：西条市めめんと森]

## 自然農法の田んぼで 田植え体験&生きもの観察会

2013.03.16 / 2013.06.16：授業日

山本貴仁（NPO 法人西条自然学校）、野満育朗（まんがら農園）：先生  
内田年泰：授業コーディネーター



：COP10 愛知ターゲット

イモリはこの時期、恋の季節！



農作業に農薬が使われるようになって久しい昨今、それが原因で生物多様性が失われることがわかっていても、雑草や害虫との闘いともいわれる日本の農耕では、使用を「やめる」ことは難しいものです。農薬や化学肥料を使わないだけでなく、種子（強制交雑ではないもの）や、苗の育て方にも注意を払う「自然農法」を行っている「まんがら農園」で、



強制交雑していない苗が無農薬・無化学肥料で育てられます。

### タイコウチって？

授業でたくさん見られたタイコウチは、田んぼや池にいる水生昆虫で、実はカメムシの仲間です。英名ウォーター・スコーピオン。捕まえて水から出すと擬死（死んだふり）をしますと言いますが、授業で見つけたときは元気いっぱいでした。飢えにとっても強いはずですが、農薬の影響やブラックバスなどに食べられるなど、最近は数がどんどん減っています。

似たような昆虫で、同じカメムシ目で日本最大の水生昆虫の「タガメ」はもっと急激に減っていて、絶滅危惧種に指定されています。



午前中は田植え体験を行いました。苗を一束ずつ手にとって植えたのですが、みんな泥だらけになって田んぼの感触や泥の匂いを確かめることができたと思います。午後は同じ場所で行った生きもの観察会「春編」に続き、第2弾の「夏編」です。農薬も化学肥料も含まれていない水と土にたくさんの生物がいることを体感しました。





①まずは鎌の使い方を教わりました。②「私も稲刈りできる!」(4歳)。③上や下の田から稲束を運搬し、稲木(はぎ)に掛けます。④朝、棚田に向かう途中、この土地特有の屋根付き橋で一休み。

## 参加者レポート

2人の子をもつ母です。愛媛の素晴らしい自然にふれたいと思い参加しました。内子の町からぐんぐん山を上がり、心配になったところ急に視界が開け棚田が現れました。車中は「わーっ」と大歓声。棚田の景色が山水の音や澄んだ風とともに迎えてくれました。

はじめに、田植えや稲刈りには機械が入らないこと、水の様子を一日5〜6回も見て回ること聞き、頭が下がりました。いよいよ、人生初の稲刈り。子供達は鎌も稲の穂も触るのすら初めて。鎌の使い方を教わり鎌を引くと、ザクッと心地よい音がして子供達も大喜びでした。トンボにバッタ、カエルや沢ガニなど沢山の生き物にも出会い、娘は指で強く弾いても切れないクモの巣を見つけ目を輝かせていました。稲刈り体験、生物との間近な接触で自然の恵みへの感謝や生命への驚きが生まれるのですね。

棚田を守ることは人の生活だけでなく、多くの生き物の環境を守ることでもあると身をもって感じた授業でした。

[報告:浜田美穂]



ここで!  
泉谷の棚田(内子町)

## 日本の棚田百選で稲刈り体験



2012.09.22:授業日  
上岡満栄(泉谷地区棚田を守る会):先生  
山田一茂&宮本幹江:授業コーディネーター



: COP10 愛知ターゲット



稲刈り体験完了し、全員で「バンザイ」!

## 棚田はいま・・・

現在では、棚田は食料生産の場である以上に、保水、洪水防止、美しい景観の提供などの役割を果たしています。また、棚田の存在する中山間地域は、多様な動植物の生息空間でもあります。農林水産省は、このような棚田地域の維持・保全の取り組みを積極的に図っていくため、1999年に特にすぐれた棚田地域について「日本の棚田百選」として認定しました。愛媛県では、内子町の泉谷、西予市の堂の坂、松野町の奥内の棚田があります。

どこもサポーターの存在が欠かせず、泉谷ではオーナー制度や春の日光浴ツアーを実施、年間にわたって多くの人が訪れています。



稲木(はぎ) 掛けまでの収穫作業を教わりました。参加者のみなさんは稲束を担いで、汗を流しながら、急な斜面を上がり降ります。一連の収穫作業を終える頃には、機械が使えない棚田で作業することの大変さを実感したと思います。

いよいよ昼食になって棚田米を炊飯して握ったおむすびを頬ばると、そのおいしさと美しい棚田風景とが相まって、笑顔、笑顔で疲れも忘れたようでした。





ここで！  
丹原町徳田地区  
(西条市)

## 里山フラワートレッキング ～春の妖精たちとの出会い～

2013.03.16：授業日

小澤 潤（愛媛植物研究会）：先生

二宮那弥&内藤正人：授業コーディネーター



：COP10 愛知ターゲット

里山の風情ただよう早春の丹原町徳田地区を散策し、「スプリング・エフェメラル（春の妖精）」を探しました。この地区にはなぜか希少植物が多く残っています。その理由を植物や雑学に詳しい小澤先生に説明してもらいながらのんびりと、ふだん気に留めなかった道端の植物たちに



①



②



①②春の里山を歩いて妖精を探します。  
③ここは地元の人でも初めて来たという方が多かった場所。

目をやりながら歩きました。理由は除草剤を使わないことも関係しているようです。植物は人の暮らしと密接に関係していることに気づきました。

### 参加者 レポート

「黄色いナズナを探してみましょう」という先生の言葉にキョロキョロしながら歩きます。見つけたそれは、普段よく見るナズナより小さく可愛い花でした。その後も色々な花に出会いました。

久妙寺地区は昔から草刈りや野焼きを行う習慣が残っているため、今でも他の地域では見られなくなった花があるということでした。貴重な植物が残っていると知り誇らしく思いました。子供達を誘って近くの里山を散策してみようかな。[報告：kiyoka]

### スプリング・エフェメラル

スプリング・エフェメラルと呼ばれる植物たちは、春に花を咲かせたのち、夏まで光合成をして栄養分を蓄えます。その後は次の春がやってくるまで、地下茎や球根の形で地中で過ごすというライフスタイルを持った花たち。「春のはかない命」といった意味になります。



ここで！  
四国中央市ロハス農園

## 四国中央市 ロハス農園 のサトウキビ

2013.06.30：授業日

川上喜八郎（四国中央市ロハス倶楽部）：先生

内田年泰：授業コーディネーター



：COP10 愛知ターゲット



①



②



③

①草取り、杭打ち作業。  
②全員で！③川上さんが草笛を吹いてくれました。

いま耕作放棄地が各地で増えています。日本では耕作放棄地は2年もすると、カヤやクズがはびこり、さらに放棄が続くと灌木類に覆われてしまつて、簡単には耕作地に戻すことができません。四国中央市には、そんな荒れてしまった土地を復活させ、かつて同市で作られていたサトウキビを栽培し、栄養価の

高い黒糖の生産販売までしている「四国中央市ロハス倶楽部」という団体があります。授業では「土地活性化」を目指すロハス倶楽部の取り組みを体験するため、草引きや杭打ちなどの作業に参加するとともに、休憩時には黒糖蒸しパンと黒糖ジンジャーエールをいただき、やがて生まれる黒糖に思いをはせました。

### 参加者 レポート

3歳の娘と参加しました。川上さんから「ちょんまげの時代、砂糖きび作りが盛んだった」などのお話。コーディネーターの内田さんからは、休耕地を利用した取組みは生物多様性の維持に大切なお話がありました。畑は無農薬とのことでカエル、バッタなど沢山の生き物がいて、娘は虫籠にカエルなどを入れて観察し喜んでいました。今は腰の高さの砂糖きびも11月頃に収穫し加工するとのことで、是非また参加したいと思いました。[報告：西崎 薫]

### ジンジャーエールの作り方

授業で飲んだ黒糖ジンジャーエール。作り方は簡単です。鍋に水と黒糖と生姜のスライスを入れ、強火で一度沸かしたあと、弱火で少し煮詰めたら原液の出来上がり。飲むときにソーダ水で割れば、オリジナル黒糖ジンジャーエールの完成です。







## 4 生物多様性あつての農林漁業

自然を相手とする農林漁業は、さまざまなレベルの生物多様性に依存しています。たとえば、海の生態系が損なわれると漁業がふるわなくなります。また、野菜や果物などのさまざまな農作物は、それぞれがもつ遺伝子の多様性から生み出されています。そんななかで奮闘する農林漁業関係者の意欲的な取り組みを取り上げました。

宇和島市蔭淵地区



ここで！  
ふるさと旅行村  
(久万高原町)



ぬかるみに足跡発見！

## あなたのとなりのホニウ類 ～足あと・うんこ・食べあとを探せ！～

2013.05.18：授業日  
海田明裕（ネイチャー企画）：先生  
二宮那弥&内藤正人：授業コーディネーター



：COP10 愛知ターゲット

面河山岳博物館と久万高原町と共に行った「生物の名前を見分ける講座」。タヌキにイタチ、テン、ノウサギ、イノシシ、リス。名前はよく知っているけど、実際に野山で野生の姿を目撃する機会はほとんどありません。

この授業ではかれらが確実に生息している証である生活痕を見て回り、それが何の動物かという見分け方を学びました。自動撮影カメラによるタヌキのタメ糞の様子も観察できました。



①民家の柱に残る爪痕を考察しました。②裏山にはタヌキのタメ糞跡も。



### 参加者 レポート

ムササビの糞やハクビシンの足跡、民家やぬかるみに残る獣の爪痕やコウモリ糞。さらにはタヌキのタメ糞やリスの食痕などを見て回るマニアックな授業でした。おかげで痕跡によってそれが何の生き物が識別する知識を得ることができ、カワウソのようになくなる前に、いつ何がいたかを記録することの大切さも学びました。これからは痕跡に注意を払い、身近な動物にもっと関心を持とうと思いました。[報告：アナグマ]

### 森のエビフライ？

授業の最後に今日のテストがあり、全問正解者にニホンリスの食痕がプレゼントされました。リスが食べたマツボックリの芯の部分で、そのかわいらしい形から「森のエビフライ」と呼ばれています。

